

テストプログラムコマンド仕様

本評価ボードにはFPGAのテスト回路が出荷時プログラミングされています。下記コマンドはこのテスト回路用です。パソコンから下記コマンドをUSBインターフェイスにて本評価ボードに転送することにより動作します。

尚、テスト回路はあくまで参考用です、動作保証をするものではありません。

コマンド	内容	R/W	例
LCDインストラクションWR	0x49 + LCDインストラクション1+ LCDインストラクション2・・・LCDインストラクションn + 0x0D	W	カーソル位置を先頭にする場合、下記4バイトを転送。 49 00 01 0D LCDインストラクションについてはLCDモジュールのデータシートを参照。
LCD表示データWR	0x44 + LCD表示キャラクタ1+ 表示キャラクタ2・・・LCD表示キャラクタn + (0x0D)	W	A B Cの文字表示させるには下記5バイトを転送。 44 41 41 42 0D 表示可能な文字とそのコードについてはLCDモジュールのデータシートを参照。
IOレジスタアドレス設定	0x42 + 0x(アドレス) + 0x0D	W	アドレス01のレジスタにFFをWRする場合下記6バイトを転送。
IOレジスタWR	0x57 + 0x(データ) + 0x0D	W	42 01 0D 57 FF 0D
IOレジスタRD	0x52 + 0x(アドレス) + 0x0D	W	アドレス04のレジスタをRDする場合下記3バイトを転送。 52 04 0D
メモリ転送アドレス指定 LL バイト	0x31+0x(転送バイト数)+0x0D	W	メモリ1へアドレス0～7FFFFまでWRする場合。下記12バイトを転送。
メモリ転送アドレス指定 LH バイト	0x32+0x(転送バイト数)+0x0D	W	31 FF 0D 32 FF 0D 33 07 0D 34 11 0D
メモリ転送アドレス指定 HL バイト	0x33+0x(転送バイト数)+0x0D	W	この後512KBのデータをWR。
メモリ転送起動	0x34+0x(転送モード)+0x0D 転送モード 0x11:メモリ1へWR 0x21:メモリ2へWR 0x12:メモリ1からRD 0x22:メモリ2からRD	W	注) 指定した転送アドレスに満たないデータまたはそれより大きいデータを送った場合 メモリ2からアドレス0～7FFFまでRDする場合。下記12バイトを転送。 31 FF 0D 32 FF 0D 33 07 0D 34 22 0D